

江戸期までの将門塚

将門塚の起源 - 天慶 3 (940) 年

- ・天慶 3 (940) 年 2 月 14 日、将門公戦死 (天慶の乱の北山合戦で流れ矢に当たる)。
- ・同年 4 月 25 日、将門公の御首が藤原秀郷により京都へ運ばれ、東市で梶首 (獄門・晒し首)。
- ・その後、御首が武藏国へ移され (伝説では首が飛んできた)、豊島郡芝崎村 (現・大手町) に葬られた。

将門塚の再興 - 德治 2 (1307) 年

- ・将門公の首塚は東国平氏の崇敬を受けたが、300 年以上を経て、14 世紀初め頃には、塚は荒れ果てていた。
- ・この頃、天変地異が多発し、疫病が蔓延し、将門公の祟りと噂された。
- ・徳治 2 (1307) 年、時宗の他阿真教上人 (一遍の弟子) が東国遊行中にたまたま通りかかった時、疫病の蔓延と将門塚の荒廃を見て、塚を修復し供養した。
- ・その際、将門公に「蓮阿弥陀仏」の法号を贈り、石塔婆 (板碑) を建立 (現在の石塔婆の前身)。

神田山日輪寺と神田明神

- ・芝崎村には伊勢神宮の領田 (御田) があったため、付近一帯は「神田」と呼ばれた。芝崎村の将門塚の近くには、神田山日輪寺と神田明神 (神田ノ宮) があった。
- ・真教上人は、将門塚を修復した後、日輪寺にしばらく留まって中興開祖となり、寺を天台宗から時宗に改宗し、念佛道場の「柴崎道場」とした。
- ・日輪寺はその後何度も所在地を変え、明暦 3 (1657) 年に浅草の現在地 (台東区西浅草 1-6-13) に移転した。
- ・将門塚修復から 2 年後の延慶 2 (1309) 年、真教上人は神田明神に将門公をお祀りし、相殿神とした。なお太田道灌が勧請した洲崎神社 (阿波一ノ宮) 分社に将門公をお祀りし、神田明神としたという説もある (『永享記』他)。

- 神田明神は江戸城増築に伴い、慶長 8 (1603) 年に神田駿河台 (神田山) へ移転、さらに元和 2 (1616) 年に現在地 (千代田区外神田 2-16-2) へ移転した。家康は神田明神を江戸の総鎮守として、手厚く保護した。
- ・また芝崎村に隣接する上平川村津久戸にあった筑土神社 (津久戸神社) にも将門公が祀られており、社伝によれば天慶 3 (940) 年の創建とされる。数度の移転の後、現在は千代田区九段北 1-14-21 に所在する。

江戸期の将門塚敷地

- ・徳川家康江戸入府後、江戸湾北西奥の日比谷入江が埋め立てられ、武家屋敷の用地となった。これにより将門塚周囲の様子は一変した。
- ・本丸と西の丸の東側 (現・大手町・丸ノ内) は「大名小路」となり、親藩・譜代大名や老中・若年寄などの屋敷が集中し、将門塚の地は、江戸時代初頭に老中土井大炊頭利勝の邸内となった。
- ・その後、変遷を経て、寛永 13 (1636) 年に大老酒井雅楽守忠清 (前橋藩) の上屋敷となつた。寛文 11 (1671) 年には、歌舞伎の「先代萩」で知られる仙台藩伊達騒動の舞台となつた。
- ・5 代將軍綱吉の頃、堀田筑前守正俊の屋敷とされたが、幕末頃には再び酒井雅楽守の上屋敷となつていて (雅楽守家は寛延 2 (1749) 年に前橋藩から姫路藩に転封)。姫路藩 8 代藩主 (雅楽守家 16 代) 酒井忠績は幕府最後の大老を務めた。9 代藩主酒井忠淳は老中であったが、戊辰戦争の咎で罷免され、明治新政府から謹慎を命じられた (姫路藩は佐幕派で朝敵とみなされた)。最後の 10 代藩主酒井忠邦は新政府に従順であり、版籍奉還により知藩事となり、廢藩置県の後は慶應義塾に入学し、アメリカへ留学した。

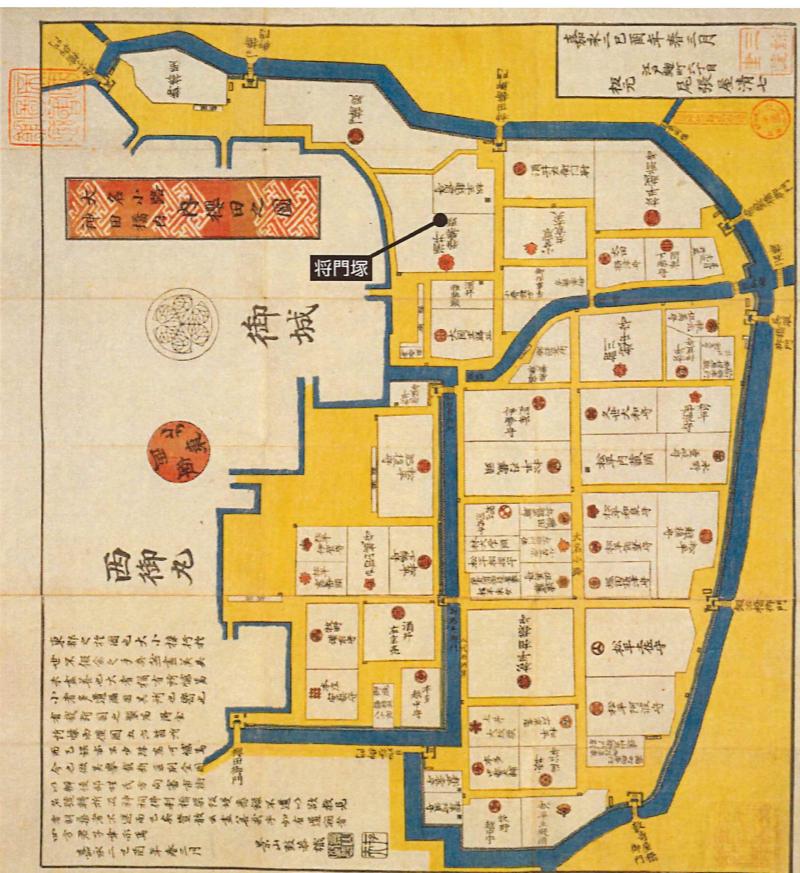


太田道灌・北条氏時代の江戸城推定図

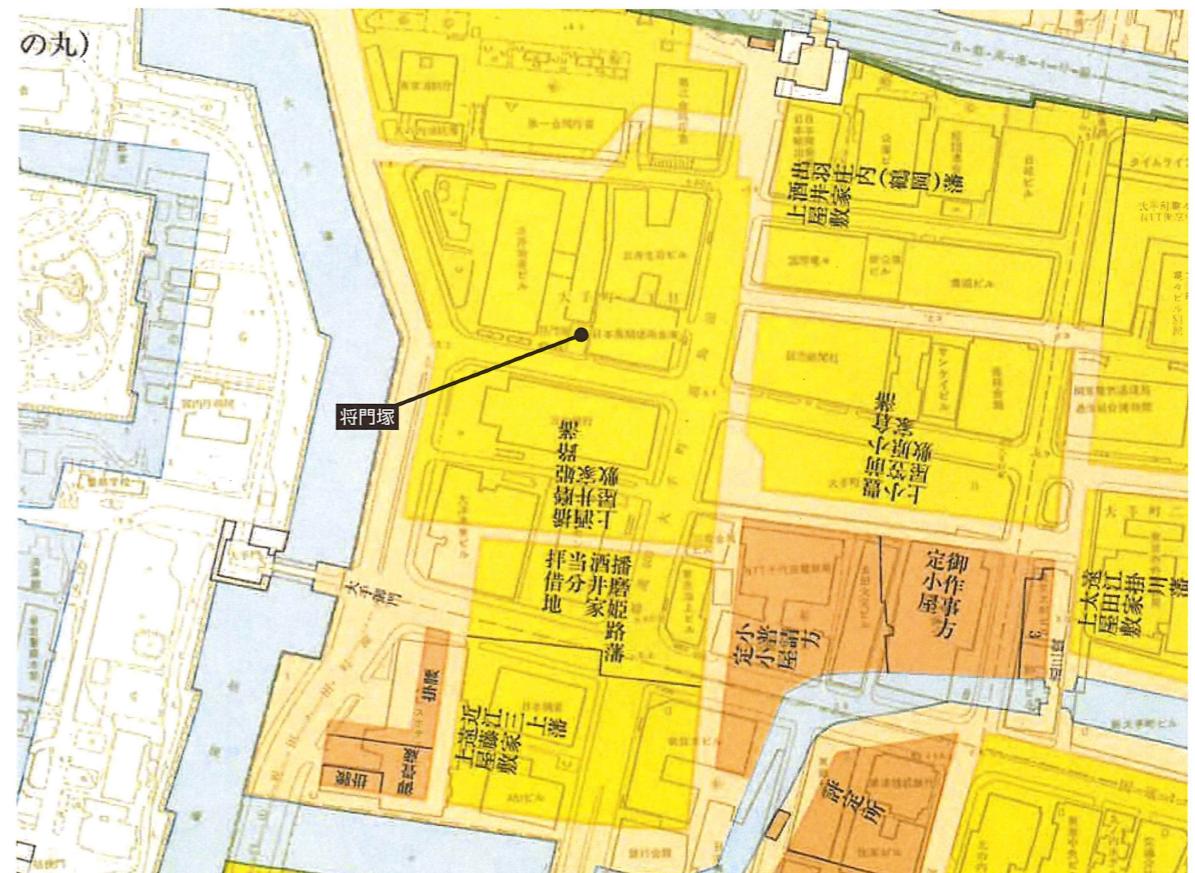
ブログ「古城の風景 戦国期の東日本の山城紹介」<https://blogs.yahoo.co.jp/siro04132001/19714854.html> より



慶長 11 (1606) 年 (第一次天下普請) 以後の江戸城推定図



嘉永年間 (1848-1855) 境の大名小路
尾張屋板『江戸切絵図』の「御江戸大名小路絵図」。90° 回転して掲載 (上が北)。

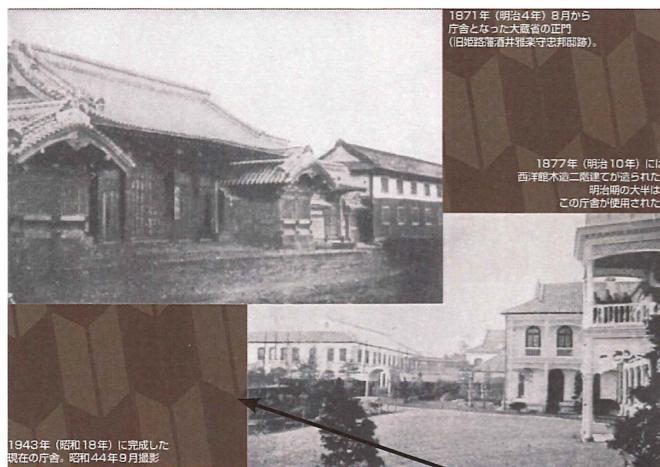


幕末 (文久 2 (1862) 年頃) の町割と平成元 (1989) 年頃の地形図対比
東京都教育庁社会教育部文化課編『江戸復原図』平成元 (1989) 年より。

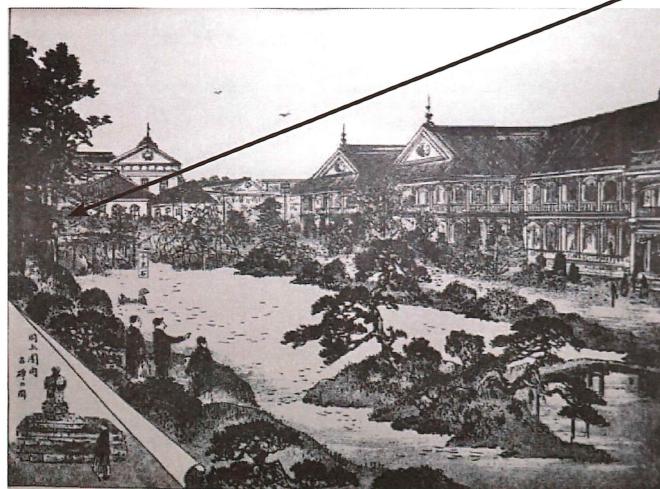
明治・大正期の将門塚 大蔵省時代

大蔵省設置

- 明治4(1871)年8月より、将門塚がある旧姫路藩酒井雅楽守上屋敷を大蔵省の庁舎とし、旧建物がそのまま使用された。その後、明治10(1877)年に木造2階建ての擬洋風建築に建て替えられた(財務省パンフレット)。
- 将門塚を含む庭園は、雅楽守家時代のものがほぼ継承された。
- 将門塚の管理は大蔵省大臣官房によって行われていたが、朝敵とされた将門公の首塚が保存されたのは、渋沢栄一の尽力によると伝えられている(保存会HP)。
- 明治39(1906)年、大蔵大臣阪谷芳郎により「故蹟保存碑」が建てられた。また失われていた真教上人の石塔婆が復された。



上：大蔵省に転用された酒井雅楽守上屋敷
下：大蔵省の擬洋風庁舎と庭園
財務省パンフレット「庁舎の変遷にみる財務省の歴史」表紙より。



明治中期の大蔵省庭園(『新撰東京名所図会』)
南東より見る。雑誌「風俗画報」(M29~M44)臨時増刊分『新撰東京名所図会』の復刻版より。

将門塚の旧状と芝崎古墳

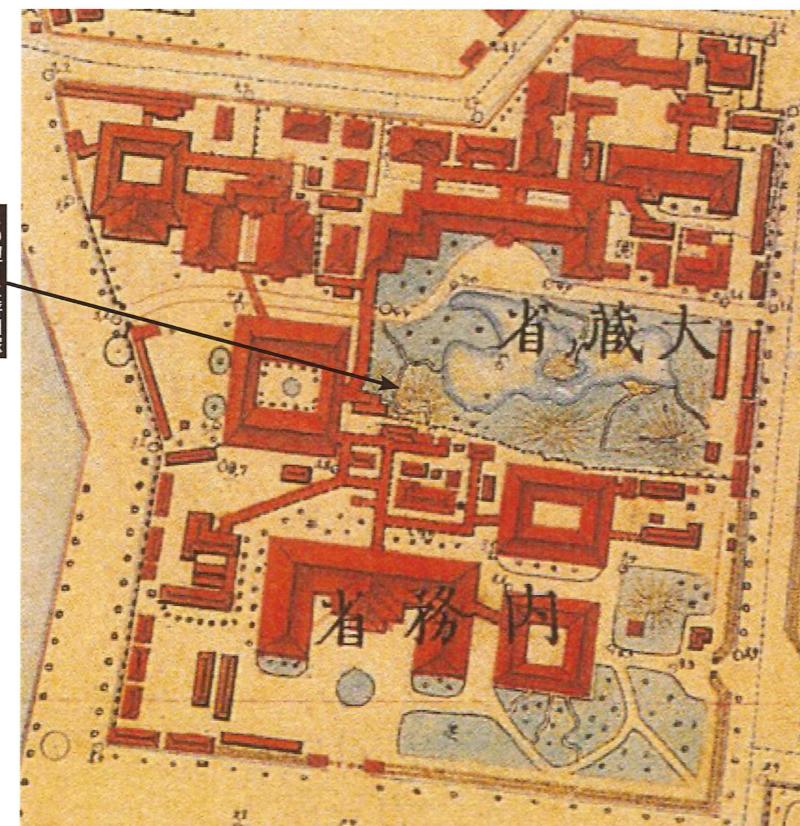
大蔵省の庭園(=酒井雅楽守家の庭園)の様子は、参謀本部による明治前期の測量図、明治大正期の書籍、名所図会等によって、概要を知ることができる。

これらによれば、将門塚を含むかつての庭園は、現在よりもはるかに(数倍)広く、池や中の島を擁していた。池の中には千鳥石と名付けられた岩がみられ、その下には「将門首洗井戸」といわれる古井戸があったという伝承も伝わっている[磯ヶ谷紫江『墓碑史蹟研究』大正13(1924)年]。

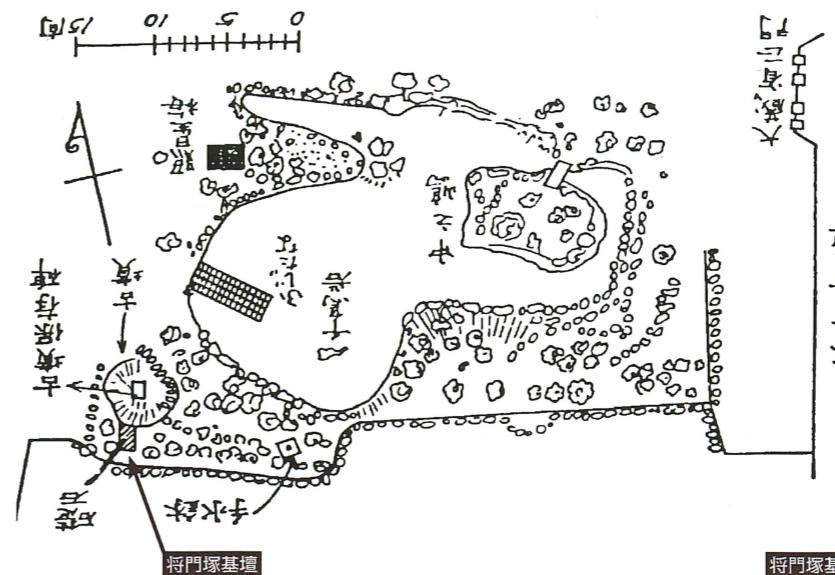
また将門塚の傍らに、高さ約6mの丘(芝崎古墳)が存しておらず、織田完之『平将門古蹟考』(明治40(1907)年)にその姿が記録されている。

おそらく将門塚・首塚の「塚」とは、もともと古墳の方を指し、石積み基壇は、祭祀のためその麓に設けられたものであろう。『平将門古蹟考』は、現在の将門塚石灯籠は、かつての塚前の常夜灯で、基壇は真教上人の石塔婆を建てるためのものであったとしている。

庭園全体の姿は、江戸期に池泉回遊式の大名庭園として整備されたものと思われるが(もと神田明神の神池という説もある)、往古の将門塚は、古墳を中心としたかなりスケールの大きなものであったようである。

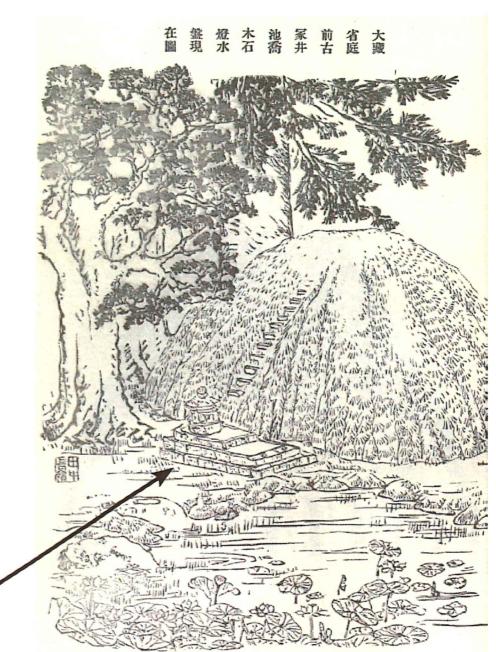


明治16(1883)年 参謀本部陸軍部測量局「五千分一東京図測量原図」
上が北。



庭園配置図

ブログ「将門の世界へ 将門一人旅」<http://11581blog.digbook.jp/archives/72>より。出典不明。なお昭和初期の『大蔵省構内に於ける平将門故蹟に関する事項』にも同様の図がある。上下逆に掲載(上が北)。



芝崎古墳の図
織田完之『平将門故蹟考』明治40(1907)年より。

関東大震災

大正12(1923)年の関東大震災で、木造の大蔵省庁舎は焼失した。翌年、跡地に仮庁舎を建てるため、古墳が崩された。その解体中の写真が鳥居竜藏『上代の東京と其周囲』(昭和2(1927)年)等にみられる。

その後、大正15(1926)年、第一次若槻礼次郎内閣で大蔵大臣であった早速整爾が突然亡くなり、管財局技師で工事部長だった矢橋賢吉も亡くなるなど続けて不幸があったため、仮庁舎建設に際する祟りが噂されるようになり、昭和2(1927)年に鎮魂碑が建てられた(国税庁HP)。



関東大震災直後の将門塚
佐藤隆三『江戸傳説』大正15(1926)年より。



関東大震災で焼失した大蔵省庁舎
古絵葉書より。

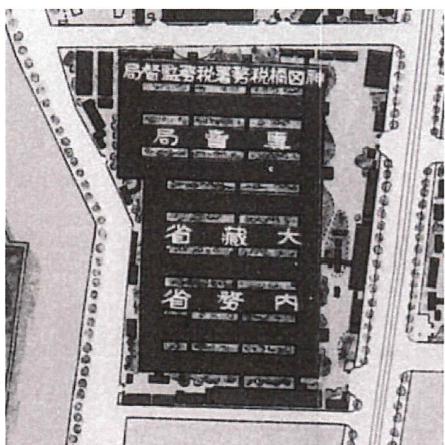


関東大震災直後の将門塚
鳥居竜藏『上代の東京と其周囲』昭和2(1927)年より。

昭和期の将門塚 1

東京空襲と終戦

- 昭和戦前には、将門塚の辺りには大蔵省・専売局等の仮庁舎が建てられていたが、昭和 20 (1945) 年の東京大空襲で、一帯は焼け野原となった。
- 終戦後、米軍（連合軍）が東京に進駐し、将門塚周辺は米軍のモータープール（駐車場）となった。昭和 22 (1947) 年の「千代田區詳細圖」では、旧大蔵省敷地全体がモータープールの空地のように描かれているが、同年の航空写真（米軍撮影）によれば、すでに多くの建物が建設されていたことが知られる。但し将門塚周囲には、植栽を伴う庭状の空間が残されており、将門塚らしき四角い構造物（基壇か）も確認できる。この頃の状況が、後の将門塚の敷地規模を規定したようである。
- 米軍施設建設中、将門塚の辺りで米軍のブルドーザーが転覆し、運転手が投げ出され病院で死亡。他にも事故が続き、日本の労働者にも怪我人が出た。
- 将門塚であることを町会長の遠藤政蔵が GHQ に伝え、その保存を訴え実現した（保存会 HP）。



仮庁舎配置図（計画図）
大正 14 (1925) 年『營繕管財局營繕事業年報』より。



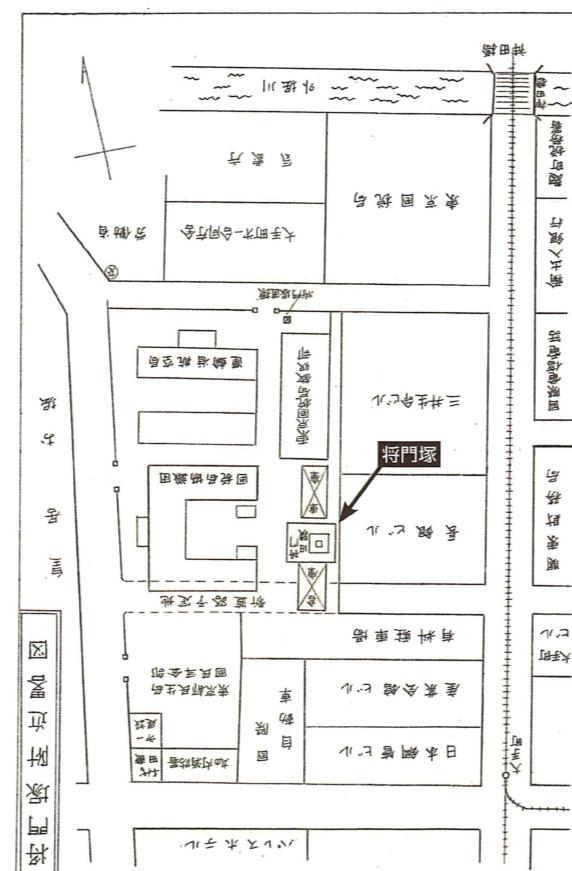
昭和 11 (1936) 年撮影の航空写真
国土地理院 WEB (<http://maps.gsi.go.jp>) より。



昭和 22 (1947) 年 7月 24 日撮影の航空写真
国土地理院 WEB より。

史蹟将門塚保存会

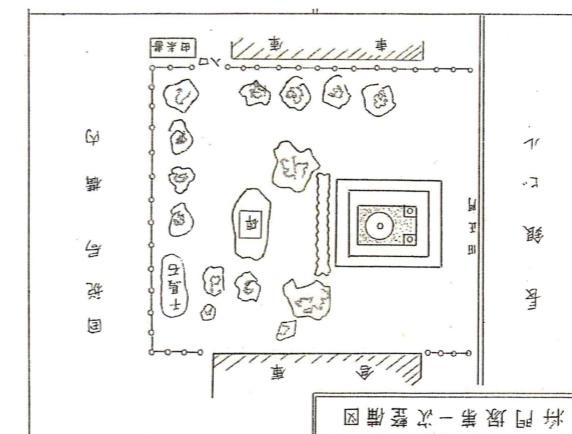
- 昭和 30 年代になると接收が解除され、将門塚周辺のモータープール跡地は、西側が国税局・運輸省航空局等となり、東側は三井生命・日本長期信用銀行に払い下げられた。
- 周辺状況の急激な変化により、将門塚の維持・管理のため、昭和 35 (1960) 年に「史蹟将門塚保存会」が、神田明神および地元企業有志によって結成された。保存会は、「将門公を顕彰し、公の神靈を慰め奉り、且つ將門首塚を保存する」ことを目的とし、管理・復旧・祭典・宣伝・史蹟指定の事業に携わった。
- 保存会は昭和 36 (1961) 年の第 1 次整備工事を皮切りに、数度にわたる整備工事を行っている。その課程で、塚の向きの反転と復帰、前面道路（特別区道千第 104 号線）の開通、敷地形状と動線の変化、千鳥石・故蹟保存碑等遺物の移動など、かなり大きな変更が行われている。



昭和 36 (1961) 年頃の周辺配置図
保存会所蔵資料より。上下逆に掲載（上が北）。

第 1 次整備工事 昭和 36 (1961) 年

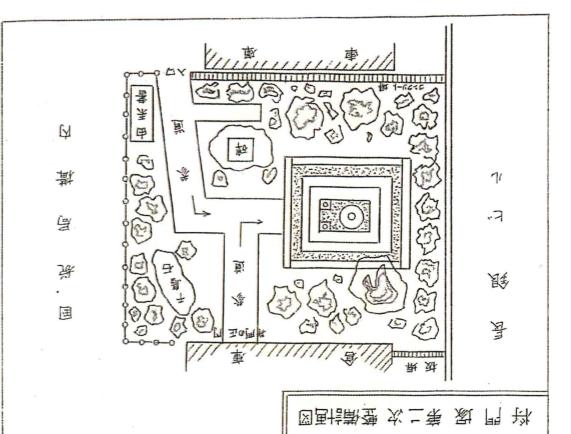
- 保存会による最初の整備工事。東隣の日本長期信用銀行（長銀）本店ビル建設（大手町パルビル、2015 解体）を契機としたもの。
- 塚の向きを 180° 替え、東を正面とした。
- 北側に出入口を設け、東京国税局徴収部敷地内に仮参道を設けた。
- 千鳥石・故蹟保存碑移設か。
- 整地・植樹・玉垣設置。由来書看板、標識柱設置。
- 昭和 36 (1961) 年 12 月、神田明神神職により、竣工報告を兼ねた慰靈祭挙行。
- 日本長期信用銀行が工事費奉納。



第 1 次整備工事後の配置図
保存会所蔵資料より。上下逆に掲載（上が北）。

第 2 次整備工事 昭和 38 (1963) 年頃

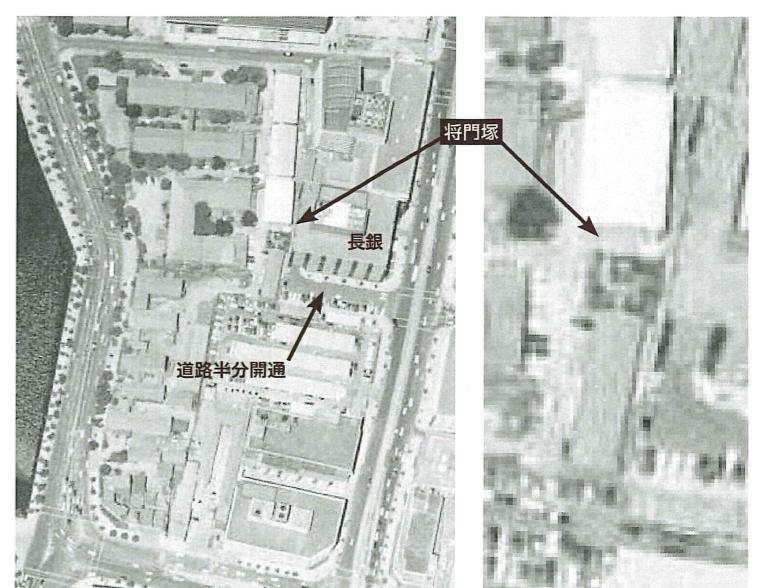
- 主として動線整備が目的と思われる改修。
- 塚の向きを旧状に戻し、西を正面とした。
- 基壇最下段周囲に葛石付加。
- 北側の出入口から L 字型に参道を整備。
- また南側の倉庫からも参道が設けられた。長銀本店ビル建設に伴って、半分だけ開通した南側区道（現在の前面道路）へ、倉庫内を通じて繋がっていたのだろうか。
- 千鳥石・故蹟保存碑・由来書看板移設。



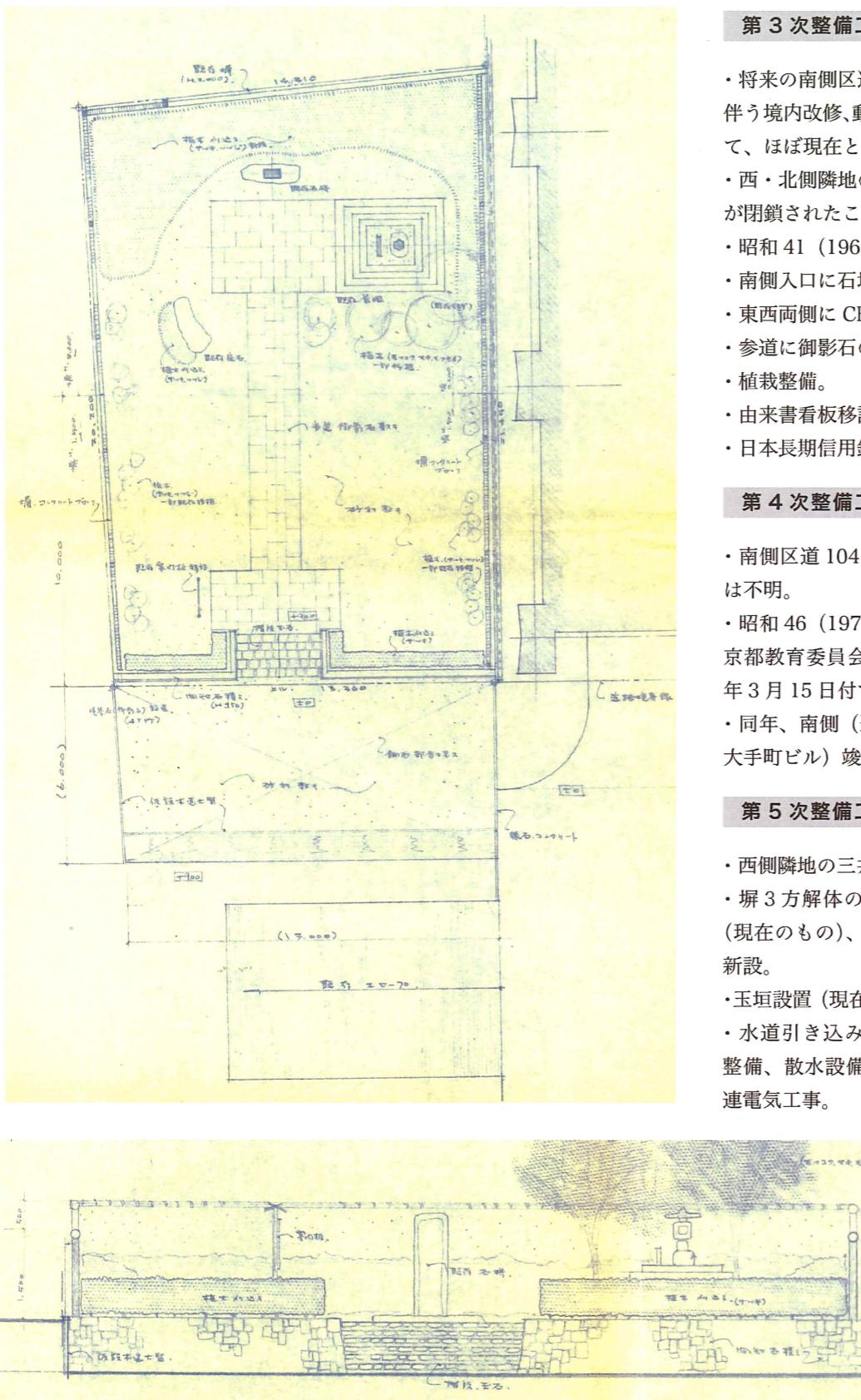
第 2 次整備工事の計画図
保存会所蔵資料より。上下逆に掲載（上が北）。



昭和 31 (1956) 年 3月 10 日撮影の航空写真
整備工事以前の状況。将門塚の南に倉庫が建てられている。国土地理院 WEB より。



昭和 38 (1963) 年 6月 26 日撮影の航空写真
第 2 期整備工事後の状況。東に長銀が建設され、区道 104 号線が半分だけ開通している。国土地理院 WEB より。



第3次整備の図面（部分）
「平将門の碑 計画図」昭和40（1965）年11月17日。
保存会所蔵資料より。

第3次整備工事 昭和40（1965）年

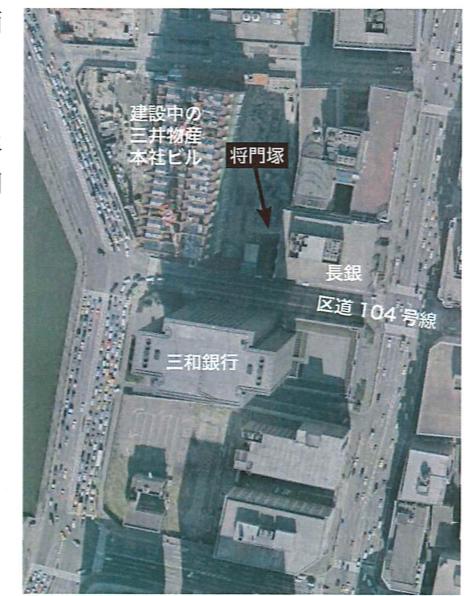
- 将来の南側区道（現在の前面道路）全面開通に向けた、敷地拡幅を伴う境内改修、動線整備。参道入り口を南に変更。この整備工事によって、ほぼ現在と同じ状況となった。
- 西・北側隣地の国税局が移転して三井物産に売却され、北側の参道が閉鎖されたことを契機とする。
- 昭和41（1966）年1月竣工。
- 南側入口に石垣（現在のもの）・石階段（玉石積み）設置。
- 東西両側にCB塀新設（北側は既存の塀）。
- 参道に御影石の敷石設置（現在のもの）。
- 植栽整備。
- 由来看板移設。
- 日本長期信用銀行が再び工事費奉納。

第4次整備工事 昭和48（1973）年

- 南側区道104号線（現在の前面道路）全面開通に伴う整備。詳細は不明。
- 昭和46（1971）年3月29日付で都の旧跡指定を受けており、東京都教育委員会が「都旧跡 将門塚」の石造標柱を昭和48（1973）年3月15日付で設置。
- 同年、南側（道路対面）に三和銀行東京ビル（三菱東京UFJ銀行大手町ビル）竣工（2012解体）。

第5次整備工事 昭和51（1976）年

- 西側隣地の三井物産本社ビル建設を契機とした整備工事。
- 塀3方解体のうえ新設（現在のもの）、擁壁2面新設。
- 玉垣設置（現在のもの）。
- 水道引き込み、給排水整備、散水設備設置、関連電気工事。



昭和50（1975）年1月20日撮影の航空写真
南側の区道104号線が全面開通している。
国土地理院WEB (<http://maps.gsi.go.jp>) より。

都旧跡指定 昭和46（1971）年

（東京都教育庁「東京都文化財情報データベース」より）

名 称 将門塚

種 別 東京都指定 旧跡

指定年月日 昭和46（1971）年3月26日

所 在 地 東京都千代田区大手町1-2

所 有 者 東京都教育委員会

管 理 者 史跡将門塚保存会

解説文

平将門は、平安時代中頃に、関東地方で大規模な反乱（天慶の乱）を起こした人物です。かつては将門塚という塚や御手洗池と呼ばれる池がありました。大蔵省再建の際に崩されたとされます。徳治2年（1307）遊行寺二世真教上人が塚を修復し、板石塔婆を立てて傍らの日輪寺において供養したとされます。その靈は神田明神において祭られ、神田明神が移転した後も塚はこの地に残りました。明治時代以降、幾多の変遷の後、昭和45年に将門塚保存会などにより現況に整備されたものです。



北側



将門塚



西側



東側



正面全景



南側出入口